

IAEA総会サイドイベント「福島第一原発 10 年の歩み」

(結果概要)

令和3年9月30日

資源エネルギー庁

原子力発電所事故収束対応室

毎年9月にウィーンで開催されるIAEA総会では、2015年より毎年、日本政府主催のサイドイベントを開催し、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に係る取組の進捗等について発表しているところ。

本年の総会(9月20日～24日)のサイドイベントは、「福島第一原発 10 年の歩み」(Road to today: Progress in 10 years at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station)と題して、UNSCEAR及びIAEAの幹部によるプレゼンテーションを含め、福島第一原発の廃炉に係る最新の取り組み状況が発表され、その後に参加者からの質疑応答が行われた(新型コロナウイルスの流行を鑑み、オンライン開催)。

日 時: 令和3年9月20日(月)19:30～21:30

説明者: **原賠機構 中川特別顧問**(福島第一原発の廃炉に向けた日本の組織体制、福島県の女子高校生による英語スピーチの紹介)

経産省 湯本審議官(ALPS処理水の扱いを含む廃炉と復興の進展)、

農水省 道野審議官(日本産食品の輸入規制撤廃に向けた交渉成果)、

東京電力 小野常務(事故後10年にわたる福島第一原発の廃炉の進捗)、

IAEA グゼリ原子力エネルギー局部長(第5回 IAEA 廃炉レビューの結果)

UNSCEAR メトカルフ事務局長(事故後の放射線影響に係る最新報告書)、

参加者: 各国・地域及び国際機関から140名超の登録。(米、英、仏、加、尼、中、韓、IAEA、OECD/NEA等)

備 考 : 各発表者が使用した説明資料は、以下URLにて公開済み。

<https://www.meti.go.jp/english/earthquake/nuclear/decommissioning/index.html#iaea>

<主な質疑応答>

Q. 処理水への懸念に対し、どのようにステークホルダーの関与を得ていくのか。

A. 国内では ALPS 小委や数百回に亘る説明会を実施。海外には、コロナにおいても、外交団やプレスには透明性高く情報提供を行っている。安全性や議論の過程について説明を求める意見も頂戴しており、今後も丁寧に関係者とのコミュニケーションの機会を設けていきたい。

Q. 海外諸国・地域の関係者は、IAEA の処理水モニタリングに参加できるのか。

A. IAEA の事業であるため、直接回答を申し上げることは難しいが、海外諸国・地域の関係者を対象とした東電福島第一原発等の視察や説明会は幾度も実施している。また、現在はモニタリングに関する政府計画を議論しているところだが、東京電力が実施するモニタリングについては、第三者の方にも活動をご覧いただく機会を設けたいと考えている。

